

JMDC Claims Database を利用した生後1か月前後の傷病名に関する検討

研究分担者 盛一 享徳 (国立成育医療研究センター小児慢性特定疾病情報室)

研究要旨

これまでの乳幼児身体発育調査では、生後1か月健診時点で入院加療されている児については調査対象としてこなかった。入院中の児を調査対象に含めるべきか否かの検討を行うためには、まず生後1か月前後にどのような病態で入院加療が行われているのかを明らかにする必要がある。全乳児の診療録を確認する事は不可能であるが、一方でほとんど全ての症例が保険診療内で加療されること見込まれることから、診療報酬明細書データを利用する事で、包括的に情報が得られる可能性が考えられた。しかし、診療報酬明細書データの利用には種々の制限や制約がある。

本研究では、生後1か月前後の時点での傷病名について特別抽出が行われたJMDC Claims Database を利用し、生後1か月前後でどのような傷病名で外来通院や入院が行われているのかの検討を行った。その結果、多くの症例では新生児疾病に関する傷病名が記録されていた。その他としては市中感染等による呼吸器疾患、発熱を伴う感染症であることが分かった。

A. 研究目的

いわゆる1か月健診を受診できない、という症例について検討を行った。先行研究¹⁾では、新生児疾患が主要因であり、次いで市中感染等による入院加療が原因となることが見出されたが、データの規模が小さく、また対象集団の社会的背景に偏りがある可能性があったことから、今回はより大規模なデータを利用し、医学的理由により1か月健診を受診できない場合、どのような病態によるのかの検討を行った。

本研究では、JMDC Claims Database を利用して、生後1か月前後において罹患している傷病名について検証を行った。

B. 方法

利用データと解析対象

データ期間は2016年8月から2019年8月までとし、対象者を生年月が2016年8月から2019年7月までの者とした。データ抽出対象は、対象者の月齢が0か月もしくは1か月時点の医科レセプトとした。

データベースは、株式会社JMDCが提供するJMDC Claims Database を利用し、上記の条件で特別抽出が行われた。本データベースは主に保険者として健康保険組合からのレセプトデータが集められている。データ期間中の加入者数は174,218人であった。

傷病名はICD10対応標準病名マスター ver. 5.01 が用いられた。

C. 結果

入院外、DPC、入院の全 551,502 レコードには、4,380 個のレセプト標準傷病名が存在した。入院外に含まれる標準病名は、全部で 3,776 個であり、DPC または入院のいずれかと入院外に含まれる標準傷病名は、2,196 個であった。

入院外のみに含まれる標準傷病名 1,580 個について、過角化症、耳介部皮膚炎を除き全て頻度が 100 回未満(全体の 0.04%未満)であり全体の傾向に対する影響が少ないと思われたこと、また傷病名の多くが 1 か月健診の受診の妨げになるとは考えづかったこと、一部の積極的治療が必要になる可能性のある傷病名については、月齢を考慮すると、通常入院加療が必要であるため、これらは臨床上の診断名ではないと思われたことから、これら 1,580 標準傷病名は検討の対象外とした(表 1)。その結果、検討対象の標準傷病名は、入院外と DPC または入院に登場する 2,196 個および、入院外には登場しないが DPC または入院に登場する 604 個の計 2,800 個となった。

入院外傷病名の分析

最も頻度の高かった傷病名は皮膚疾患であり、89,704 レコード認められた。ただしその 97%以上が緊急性がなく 1 か月健診受診の妨げとはならない可能性が高いものであった。次に頻度の高かったのは新生児疾患であり、82,859 レコード認められた。次に頻度の高かったのは市中感染を含む呼吸器疾患であり、27,974 レコード認められた。次いで胃腸炎や便秘を含む消化器疾患が 16,899 レコード、結膜炎が約 80%を占める眼疾患が 14,130 レコード、心雑音や先天性心疾患を含む循環器疾患が 12,727 レコー

ド、難聴や中耳炎、アレルギー性鼻炎を含む耳鼻科疾患は 5,263 レコード、甲状腺疾患や低血糖を含む内分泌疾患が 4,591 レコード、水腎水尿管や尿路感染症、腎奇形や停留精巣を含む腎・泌尿器疾患が 4,519 レコード、敗血症や髄膜炎を含む感染症が 4,035 レコード、貧血や凝固異常、多血を含む血液疾患が 2,789 レコード、小奇形や染色体異常を含む先天奇形が 2,529 レコード、股関節脱臼や内反足を含む整形学的疾患が 2,044 レコード、てんかんや痙攣を含む神経疾患が 1,293 レコード、打撲や骨折を含む外傷が 1,223 レコードであった。以上で全体の 96.5%を占めた(表 2)。

入院傷病名の分析

最も頻度の高かった傷病名は新生児疾患であり、54,871 レコード認められ、全入院レコードの 6 割弱を占めた。次に頻度の高かった傷病名は内分泌疾患であり、5,935 レコード認められた。その 88%は低血糖で、10%は甲状腺疾患であった。次に頻度の高かった傷病名は呼吸器疾患であり、5,391 レコードが認められた。そのうち 40%が市中感染による入院の可能性があった。次いでチアノーゼや心雑音他の循環器症状および先天性心疾患を含む循環器疾患が 5,166 レコード、99%以上が緊急性がなく 1 か月健診受診の妨げとはならない可能性が高い疾病のみと思われた皮膚疾患が 4,840 レコード、肝機能障害や便秘・嘔吐、腸炎等を含む消化器疾患が 3,378 レコード、B 群溶連菌感染、敗血症や髄膜炎を含む感染症が 3,111 レコード、結膜炎等が 83%を占める眼疾患が 1,752 レコード、貧血や凝固異常、多血を含む血液疾患が 1,607 レコード、水腎水尿管や尿路感染症、腎奇形や停留精巣を含む腎・泌尿器疾患が 1,342 レコード、難聴や中耳

炎を含む耳鼻科疾患は 750 レコード、低体温が 83%を占める外傷が 889 レコード、小奇形や染色体異常を含む先天奇形が 676 レコード、脳室拡大、てんかんや痙攣を含む神経疾患が 471 レコード、多指症や内反足を含む整形学的疾患が 267 レコードであった。以上で全体の 95.9%を占めた (表 3)。

DPC 傷病名の分析

DPC 傷病名は主に大規模病院の入院症例を対象にしていると思われた。

最も頻度の高かった傷病名は新生児疾患であり、92,798 レコード認められ、全入院レコードの 7 割強を占めた。次に頻度の高かった傷病名は RS ウイルス感染等の市中感染を含む呼吸器疾患であり、6,888 レコード認められた。次に頻度の高かった傷病名は循環不全や先天性心疾患を含む循環器疾患であり、6,653 レコードが認められた。病名としては病態名以外では先天性心疾患が上位を占めた。次いで便秘や嘔吐症、胃腸炎と言った一般的な疾病に加え、ヒルシュスプルング病などの先天性疾患を含む消化器疾患が 3,448 レコード、髄膜炎や敗血症といった感染症が 2,846 レコード、95%以上が緊急性がなく 1 か月健診受診の妨げとはならない可能性が高い疾病のみと思われた皮膚疾患が 2,205 レコード、貧血や血小板減少、多血や凝固異常を含む血液疾患が 2,072 レコード、水腎症や尿路感染症、腎奇形や停留精巣を含む腎・泌尿器疾患が 1,474 レコード、未熟児網膜症が 65%、結膜炎等が 27%を占める眼疾患が 1,345 レコード、染色体異常や小奇形を含む先天奇形が 1,269 レコード、発達遅延、てんかんや痙攣を含む神経疾患が 976 レコード、難聴や中耳炎を含む耳鼻科疾患は 780 レコード、低血糖や甲状腺異常を含む内分泌疾患が 663 レコード、

93%以上が未熟児くる病他で占める骨疾患が 645 レコード、股関節脱臼や内反足を含む整形学的疾患が 280 レコードであった。以上で全体の 96.7%を占めた (表 4)。

D. 考察

今回は、年間 5 万 8 千人の新生児・乳児に関する 3 年分のレセプトデータについて検討を行った。

先行研究¹⁾で明らかになったように、入院外(外来)診療で最も頻度が高かった傷病名は湿疹や乾皮症といった緊急性を伴わない皮膚疾患であり、皮膚疾患を原因として 1 か月健診が受診できなくなる可能性は低いと考えられた。また眼疾患は結膜炎が最も多く、これも 1 か月健診の妨げになるとは思われなかった。上気道炎や気管支炎といった呼吸器疾患が 2 番目に多かったが、そのほとんどがいわゆる感冒という状況であることが予想された。一部気管支喘息、RS ウイルス感染等による急性細気管支炎、肺炎などが含まれていたが、これらの症状が強い場合には入院診療となると予想された。同様に胃腸炎や急性中耳炎、尿路感染症といった感染症の一部においても症状が強い場合には入院加療となることが予想された。総じて入院を伴わない診療を原因として 1 か月健診が受診できない状況はほとんどないと推察された。

入院傷病名の分析では、全体の 6 割が新生児疾患であったが、循環器疾患や内分泌疾患など他の領域に区分される傷病名であっても新生児疾患に合併するものが多数認められた。新生児疾患以外の入院傷病名としては、呼吸器疾患や市中感染等を原因とする発熱を伴う感染症によるものが多かった。従って、入院症例は NICU を含む新生児病棟もしくは小児科病棟に入院する症

例が多いと思われた。

DPC 傷病名ではより大規模病院が中心になることもあり、全体の7割以上が新生児疾患、とくに早産・低出生体重児と関連するものであった。その他の傷病名については入院傷病名と同様に呼吸器疾患や市中感染によるものが多かった。従って、入院症例はNICUを含む新生児病棟もしくは小児科病棟に入院する症例が多いと思われた。

E. 結論

医学的理由により1か月健診を受診できない可能性のある症例の多くは新生児疾患を理由としており、次いで市中感染等による呼吸器疾患、発熱を伴う疾患である割合が高く主として小児科病棟に入院加療される疾患であると思われた。

F. 謝辞

本研究に利用した健康保険組合等診療報酬明細書データは、株式会社JMDCの協力の下で提供されたJMDC Claims Databaseを利用した。関係各位には深謝申し上げます。

G. 参考文献

1. 盛一享徳. 神奈川県国民健康保険診療報酬明細データを利用した生後1か月前後の傷病名に関する検討. 令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)「乳幼児の身体発育及び健康度に関する調査実施手法及び評価に関する研究(研究代表:横山徹爾)」。分担研究報告書. 令和2年3月

H. 健康危機情報

なし

I. 研究発表

なし

J. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表 1 検討対象外とした入院外にのみ出現した傷病名 (71 疾病)

傷病名	傷病名
脂漏性皮膚炎	涙のう炎
急性乳児湿疹	股関節開排制限
急性湿疹	頭部湿疹
臍ヘルニア	膿痂疹性湿疹
急性鼻炎	鼻涙管閉鎖症
皮膚炎	機能性心雑音
皮膚感染症	小児湿疹
かぜ	鼻涙管狭窄症
接触皮膚炎	過角化症
鼻閉	異所性蒙古斑
アレルギー性鼻炎	正期産児
臍周囲炎	急性外耳炎
眼瞼炎	空気嚙下症
頸部皮膚炎	皮膚真菌症
脂漏性乳児皮膚炎	内反足
アトピー性皮膚炎	母斑細胞母斑
新生児ざ瘡	ポリープ
耳垢栓塞	感染性皮膚炎
新生児臍出血	単純性血管腫
外耳湿疹	多指症
皮膚カンジダ症	斜頸
外耳炎	膿皮症
顔面急性皮膚炎	アレルギー性結膜炎
副耳	新生児涙のう炎
鼻炎	毛包炎
全身湿疹	新生児生理的黄疸
口腔カンジダ症	新生児臍ポリープ
小児乾燥型湿疹	乳児寄生菌性紅斑
皮膚びらん	母斑
カンジダ症	耳介部皮膚炎
先天性股関節脱臼	カンジダ性湿疹
陰のう水腫	角結膜炎
伝染性膿痂疹	間擦疹
先天性涙管閉塞症	耳介形成異常
肛門湿疹	ビタミンK欠乏による凝固因子欠乏
汗疹	

表 2 入院外レセプトにおける疾病の割合

疾病分類	皮膚疾患	新生児疾患	呼吸器疾患	消化器疾患	眼科疾患	循環器疾患	耳鼻科疾患	内分泌疾患	腎泌尿器疾患
頻度	89,704	82,859	27,974	16,899	14,130	12,727	5,263	4,591	4,519
割合	31.7%	29.3%	9.9%	6.0%	5.0%	4.5%	1.9%	1.9%	1.6%

疾病分類	その他感染症	血液疾患	先天奇形	整形外科疾患	神経疾患	外傷	その他	合計
頻度	4,035	2,789	2,529	2,044	1,293	1,223	8,391	280,970
割合	1.4%	1.0%	0.9%	0.7%	0.4%	0.4%	4.5%	100.0

表 3 入院レセプトにおける疾病の割合

疾病分類	新生児疾患	内分泌疾患	呼吸器疾患	循環器疾患	皮膚疾患	消化器疾患	その他感染症	眼疾患	血液疾患
頻度	54,871	5,935	5,391	5,166	4,840	3,378	3,111	1,752	1,607
割合	58.2%	6.3%	5.7%	5.5%	5.1%	3.6%	3.3%	2.1%	1.7%

疾病分類	腎泌尿器疾患	耳鼻科疾患	外傷	先天奇形	神経疾患	整形外科疾患	その他	合計
頻度	1,342	750	889	676	471	267	3,905	94,351
割合	1.4%	0.8%	0.9%	0.7%	0.5%	0.3%	4.1%	100.0%

表 4 DPC レセプトにおける疾病の割合

疾病分類	新生児疾患	呼吸器疾患	循環器疾患	消化器疾患	その他感染症	皮膚疾患	血液疾患	腎泌尿器疾患	眼疾患
頻度	92,798	6,888	6,653	3,448	2,846	2,205	2,072	1,474	1,345
割合	72.2%	5.4%	5.2%	2.7%	2.2%	1.7%	1.6%	1.1%	1.0%

疾病分類	先天奇形	神経疾患	耳鼻科疾患	内分泌疾患	骨疾患	整形外科疾患	その他	合計
頻度	1,269	976	780	663	645	280	4,181	128,523
割合	1.0%	0.8%	0.6%	0.5%	0.5%	0.2%	3.3%	100.0%